

#今月の特集関連本

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.1029)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



検査値を読む トレーニング

ルーチン検査でここまでわかる

本田孝行



検査値を読むトレーニング

ルーチン検査でここまでわかる

本田孝行＝著

本体 4,500 円＋税／B5 判・352 頁／医学書院／2019

検査値の推移と組み合わせから、「病態を読み解く力」を身につける本。「RCPC」の手法では、病歴や身体所見の情報なしで、検査所見のみから病態を推論する。本書はこれに時間軸と複数検査値の組み合わせを加え、患者の病態を 13 の基本項目に分け、全 39 症例の検査値の推移から病態の変化を読み解いていく。「患者の体に何が起きているのか？」を推論する力を磨きたいすべての医師・臨床検査技師に。



異常値の出るメカニズム

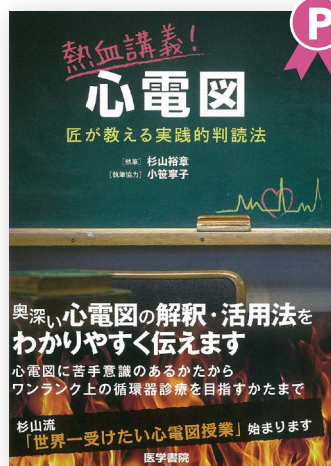
第 7 版

河合 忠＝監修

山田俊幸、本田孝行＝編

本体 6,000 円＋税／B5 判・304 頁／医学書院／2018

増え続ける検査項目。医療者には、初診時の基本的な検査から異常値が示す背景を探り、次に行うべき検査を適切に選択し、あとに続く医療行為のゲート情報を見極める眼が求められます。基本的検査を重要視することを明確にするため、各分野で該当するものを「基本検査」と位置づけ、二次的に行うものを「基本検査に準ずる検査」として、やや軽めの比重で解説した。臨床検査医学を学ぶ学生・医療者必携の「KAWAI's LABORATORY MEDICINE」。



熱血講義! 心電図

匠が教える実践的判読法

杉山裕章＝執筆

小笹寧子＝執筆協力

本体 4,000 円＋税／A5 判・400 頁／2019

“心電図の達人”とは、心電図だけですべてを語る人ではなく、心電図の異常所見を拾い上げたうえで、患者の訴えと他の所見を総合して病態を把握し、的確な治療につなげられる人のこと。「Vサイン! ABCDE 法」を合言葉に、代表的な不整脈・波形異常から病態を考える熱血 10 講義をクリアすれば、臨床力アップは間違いなし。「小笹流 私はこう読む」でポイントを整理して「確認テスト(解答と解説つき)」を終える頃には、あなたも心電図が読みたくなっているはず。



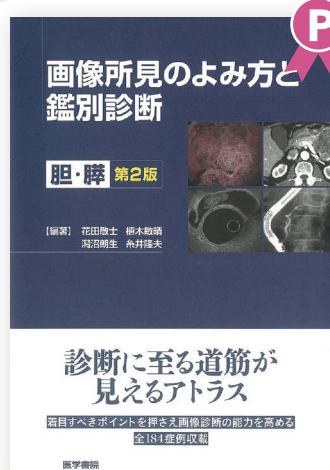
診断力が高まる

解剖×画像所見×身体診察マスターブック

Sagar Dugani, Jeffrey E. Alfonsi, Anne M. R. Agur, Arthur F. Dalley＝編
前田恵理子＝監訳

本体 5,800 円＋税／B5 判／408 頁／医学書院／2018

医学教育で分断して教えられがちな解剖・画像所見・身体診察を、有機的に統合して診断につなげるアプローチを紹介。具体的な疾患をベースに豊富な情報を収載し、システムティックに診断の流れを紹介しており、きわめて実践的なつくりとなっている。身体の部位ごとにまず基本知識をおさらいし、そのうえで症例をもとに統合的アプローチを学ぶという構成は、医学生・研修医にも好適。他の医療系職種の教科書としても使える。



画像所見のよみ方と鑑別診断 胆・膵

第2版

花田敬士、植木敏晴、湯沼朗生、糸井隆夫＝編著

本体 12,000 円＋税／B5 判・400 頁／医学書院／2019

画像に認められた所見から何を読み取り、何を考えるべきか？ 診断に至る道筋が見えるアトラス。好評を博した初版のコンセプトを継承しつつ大改訂を敢行。1 症例の画像・病理像を見開き 2 ページに収め、エキスパートの着眼点、思考の流れを追うことができるユニークな構成。画像所見と病理像の対比により鑑別診断のポイントが理解できる。胆膵領域の画像診断の奥深さが感じられる 198 症例を収載。



肝の画像診断

画像の成り立ちと病理・病態 第2版

松井 修、角谷真澄、小坂一斗、小林 聡、上田和彦、蒲田敏文＝編著

本体 9,000 円＋税／B5 判・336 頁／医学書院／2019

「画像は病理・病態を反映し、また同一疾患でも病理・病態は多彩である」。そのプリンシプルのもと、画像の背景にある病理・病態の解析に精励された金沢大学・松井グループの集大成。検査機器・撮像法の原理から病変が描出されるメカニズムを解説し、画像所見が示唆する病理・病態を解き明かす。各論では疾患別に多数の症例を掲載。肝疾患の診かた・考えかたが確実に深まる画像診断の基本書。